

京都教区時報

第219号

田中司教認可
毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨

編集 京都教区時報編集室 住所 京都市中京区河原町三条上る河原町カトリック会館5F

カトリック京都教区ザビエルネット/アクセスNo.075-467-1676 ゲストID:GUEST

通信速度:1200-28800bps 通信条件:N,8,1,X,N 接続環境:単回線24時間

e-mail catholic@mbox.kyoto-inet.or.jp Home Page <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/catholic/>2
1996

教区合同洗礼志願式

一九八九年より始められた教区合同洗礼志願式は、今年も二月二十五日に行われます。

第二バチカン公会議の決定により、成人のキリスト教入信式は、教会共同体の参加のもとに段階的に典礼を行って、入信希望者の上に神の恵みを祈り求めることになりました。

*入信の第一段階

キリストの教えを学び、回心と信仰の道を歩み始めた人がキリストに従うことを望むようになると、教会は入門式を行い、その人を求道者として共同体に受け入れる。

*入信の第二段階

求道者が信仰に進み、洗礼を受ける意志を表すならば、教会は洗礼志願式を行って、その人を洗礼志願者と認める。

*入信の第三段階

四旬節中、信者の共同体の中で準備した洗礼志願者は、復活徹夜祭に入信の秘跡、洗礼・堅信・聖体を受けてキリスト者となる。

(カトリック儀式書より)

※写真は昨年の教区合同洗礼志願式のものです。

京都教区内の地区組織の名称統一のお願い

京都教区司教 ライムンド 田中健一

先には「紀元二〇〇〇年の到来を迎えるにあたって」というメッセージをお送りしましたが、その後日本二十六聖人殉教四百年祭を京都でも行うことを決定致しました。一九九七年二月には長崎教区で殉教四百年祭の行事が計画されておりですが、捕えられたのは一五九六年十二月の京都でした。そこで、一九九六年十一月二十三日に京都でも記念行事を行うことにしました。このためには実行委員会を作る必要がありますので、追っ

てお願いをすることになります。

ところで、記念行事といっても、一日だけの行事で終わるのでなく、今から当日に向けて、又、二〇〇〇年の到来に向けて、先輩達の福音宣教の精神を学び、現代の福音宣教のあり方を探して頂きたいと願っています。

先のメッセージでもお願いしましたが、京都教区の福音宣教のあり方として、専任司牧でなく、共同宣教司牧の道を歩み始めております。しかし、まだまだ共同宣教司牧への取り組みをどのようにしたらよいかわからないという方も

多いようです。

そこで、教区内にある、三重、奈良、滋賀、京都北部、京都南部の五地区で、信徒・修道者・司祭が共に集い、地区内の福音宣教についての方針や、具体的なあり方（共同宣教司牧の可能性、小教区間の協力など）を話し合って頂きたいと思っております。現在、すでにそのための組織のある地区もありますが、教区内で統一した組織の名称を使いたいと思っておりますので、「三重カトリック協議会」、「奈良カトリック協議会」、「滋賀カトリック協議会」、「京都北部カトリック協議会」、「京都南部カトリック協議会」という名称でお願いします。

今回、「共同宣教司牧推進チーム」の設置も考えておりましたが、とりあえず各地区で、信徒・修道者・司祭が共に福音宣教のあり方について話し合っ頂きたいと思っております。

紀元二〇〇〇年の到来をふさわしく迎えることができますように、共に祈り、共に歩んでいきたいと願っております。

司祭全体集会報告

昨年八月に開かれた司祭総会の決定に基づいて、司祭全体集会が昨年十一月九日メリノールハウスで開催され、田中司教と司祭三十三名が出席しました。

*地区組織の名称統一について

この集会において、各地区で信徒・修道者・司祭が集まって協議する場を作り、教区で共通の名称を使うようにしたいという案が出されました。

これを受けて田中司教は一九九五年十二月三日付けで、上記の「京都教区内の地区組織の名称統一のお願い」という手紙を出されました。

*紀元二〇〇〇年の到来を迎えるにあたって

京都教区の取り組みとして、一九九六年十一月二十三日、日本二十六聖人殉教四百年祭をするこ

とになりました。
尚、この機会に、オリエンズ宗教研究所の「福音宣教」誌に掲載された「戦後五十年」の記事を勉強することも必要という意見が出されました。

*終身助祭制度について

田中司教より、終身助祭制度検討委員会より出された「日本のカトリック教会における終身助祭制度および養成要綱」の説明がありました。この文書は六月の司祭総会で承認され、目下教皇庁に認可申請中です。

これに対して、京都教区としては、集会司式者・聖体奉仕者の養成に力を入れるべきで、助祭は例外措置として認めるべきだという意見が多数を占めました。

*小教区間の協力関係について

各地区での司祭の集まりが継続的に開かれるようになり、各地区からの報告を受けました。

*集会司式者・聖体奉仕者の任命について

●聖香油ミサの中で、教区全体の集会司式者・聖体奉仕者の名前を司牧から発表してほしいという意見が出されましたが、その後司祭評議会で話し合い、人数だけを発表し、教区時報に掲載することになりました。

そのために、任命期間を四月一日から三月三十一日に統一する必要性があります。

(文責・滝野)

タイ国スリン県でのプロジェクト

又ヴェール愛徳修道会 スール・ヴェロニカ

一九九一年にスリン県福祉事務所の人たちと、私たちの志向が一致して、学校に行きたくても行けない生徒たちのために「スカラシップ」を実施することになった。各地に多種多様の奨学金制度があるが、スリンの「スカラシップ」の特色は「小人数にして家族単位で密度の関わりを持つ」という趣旨の基で行っている。そのため月一度の家庭訪問を原則としている。生徒は勿論父親・母親もしくは保護者（祖父・叔父・叔母）に問題が無いか、あるとすれば共に解決方法を考える。それと奨学生のために月一度の活動日を設け、創造性、協調、協力を養うために活動する。

それに私たちのスカラシップは、生徒に絶対現金を渡さない、教科書をはじめ給食代、カバン、靴、制服等、鉛筆一本に至るまで現物支給である。現金を渡す事によって、保護者の酒代又は賭事の原因を避けるためである。だから生徒がカバンが欲しいという要求があった場合、家庭訪問をし本当に使用出来るかどうか見きわめ判

断する。まだ使用出来るかと判断すればあと二〜三カ月使用するように指導する。教科書等は学期末に全部ムニティー（私たちが所属しているカトリックの団体）に返品させ、使用出来るものは次年度の生徒に使用している。これは生徒たちに願えば何でもすぐに手に入るという安易な気持ちを持たせない為と、それぞれの品物を大切に扱う事を教えるためである。

その外に大事な仕事は、生徒の「IDカード」作りである。貧しさ故に、無知故に保護者が出生届を提出していない生徒が居る。タイ人でありながら無国籍の生徒、その生徒たちに戸籍を、タイ人である事を証しするための「IDカード」を作成するための援助活動。これは簡単な事ではなく、時間と忍耐を要求される。得てして生徒が無い場合、両親若しくは片親が持っている事が多い、その場合まず親のIDカードから作成しなければならぬ。生徒だけの場合でも本人をとりあげた助産婦、家主、生れた事を証人する近所の人、国家公務員二名等十人の証人が必

要で、その人たちと連絡を取り集まってもうただけでも大変である。少なくとも三カ月〜半年はかかる。

去年からタイ政府の方針によって、中学生にも教育の場がより広く与えられるようになった。

それでこれまでの小学生だけでなく、中学生にまで拡大している。又、中学校を卒業しても職の無い青少年のためにも、一カ年の職業訓練校の道を開いている。将来を担う青少年たちが自立出来、将来に夢を持つ事が出来るようにと願っている。

もう一つの仕事は、村の移動図書館である。スリン県とカンボジア国境に近い二つの郡、二十二校の小学校に月一度本を貸し出している。一定額の本をムニティーが購入し、それを四つのグループに分けてそれぞれの小学校にまわ

して最後に当った小学校がその図書を買えるというやり方。情報機関の乏しい村の生徒たちに少しでも本に触れさせたい、読書で知識を



して最後に当った小学校がその図書を買えるというやり方。情報機関の乏しい村の生徒たちに少しでも本に触れさせたい、読書で知識を

得させたいと願ってはじめて。今年はその生徒たちに大きな思いがけない賜物があつた。二つの小学校に図書館が建設された。生徒は勿論村人の喜びは元より県の教育委員会の方々から感謝されている。私たちの意向に賛同して下さった支援者の善意溢れる結果である。

スカラシップも、スポンサーの方々があつてこそ私たちも仕事が出来るのである。今、スポンサーの方々は日本各地に広がっている。しかし、中心になつて私

ちを支援し協力して下さっているのは聖母女学院関係の方々である。始めは同窓会が中心だったが、今は在校生をはじめ先生方が一体となり支援活動をして下さっている。スリンのスカラシップも今一つの転機を迎えている。発展途上国であったタイは著しい発展成長をなしとげている。スリンとて同じで四〜五年前に比べられない程繁栄している。この経済成長の内意義づけられていくか、どのように発展させていくべきか等大きな課題をかかえている。

(写真は村の図書館)

司教の小教区訪問と人材バンク

一九九五年十二月の宣教司牧評議会定例会議において、「司教の小教区訪問と人材バンク」の具体的な取り組み方法について話されました。以下に議事録の一部を紹介いたします。

司教の小教区訪問

〔目的〕

●「京都教区の近い将来について、司教とともに気楽に話し合う場を設ける」

〔副題〕

● 召し出しについて、司教からの呼びかけと意見交換。
● 信仰と生活に関する小教区の現状を考える。
● 趣意書には、目的がよく分かる説明文を付ける。

〔日程〕

● 一九九六年十月より、五年計画で実施する。
● (場合によっては、全小教区を訪問できないこともあるので、途中で再検討も必要)。
● 一九九六年六月より、広報活動を行う。

● 堅信式の日程と方法を考える。
● (堅信式のスケジュールに合わせ

て懇談の場を設けるとか、複数の小教区で合同にし、司教の時間を作ることなど)。

〔スタイル〕

● 各地区の協議会で説明(口頭と文章で)する。(主任司祭、信徒会会長を含む)。

● 訪問の方法は、各小教区で選択してもらう。(地区や小教区に合った方式とする)。

例えば：● 水戸黄門方式

● 公式訪問方式

● 問い掛け討議方式

● 井戸端会議方式

話し合う事柄について、地区や小教区から要望があれば、事前に連絡してもらう。
● 具体化にあたり、誰が窓口になるか。

司教の要請があれば、評議員でチームを作り、窓口になることも可能。

〔同行者〕

● (全評議員の中から)司祭一名、信徒二名が同行する。

(少なくとも、地区外から一名の参加が望ましい)。

〔訪問後の報告〕

● 小教区から：場所、人数、感想

など、アンケート式のプリントを用意し、記入してもらう。

● 同行者から：気付いたこと(メリット・デメリット)を記入してもらう。

● 教区全体への報告は、教区時報を通して行う。

人材バンク

ステップ一 司祭・修道者が信徒あるいは一般の人から相談を受け、困ったときにアドバイスを出せる人の集まりをつくる。

ステップ二 ステップ一のことを日本の各教区に展開する。

ステップ三 日本全国を対象に、一般の人々にも開放し、司祭・修道者経由、あるいは直接相談できるようにし、宣教司牧活動のひとつとして位置づける。(各教区に窓口を作るが、組織的には一本化しておく)。

● ステップ一としては、「司祭・修道者」のための「人材バンク」を考えることにするが、以下の懸念事項があり、その解決のための検討を継続する必要がある。

1. ステップ一の継続期間と、ステップ二・三への移行を念頭に置いたスケジュール。
2. 信徒が直接相談できる「センター」

のようなものがあるとよい。(司祭・修道者に相談できない場合が多い。司祭・修道者が常駐しない小教区もある)。

最終目標であるステップ三をできるだけ早く実現するために、検討機関を設置し、具体的計画を立案することが重要である。

● 人材の募集方法

○ 推薦・人材として適任者と思う人を推薦する。(本人とは交渉しない)。

○ 人材リスト・チームを作って、事務処理をする。

○ 依頼・趣意書に同意していただける人に、登録票を出してもらう。司教の依頼状を渡す。

● 人材の適性の判断は？
自然に適任者が残っていくことと思われる。

● ステップ三には、日本全国とあるが、まず「京都教区」を対象と考えている。

● スタートは、登録者が一名でもあった時点としたい。

● 推進チームについては、具体的には検討していない。

※実行に移すにあたり、司祭評などでも説明の上、すべての司祭・修道者に周知・理解を願う。

● 司祭・修道者に相談できない場合が多い。司祭・修道者が常駐しない小教区もある)。

小教区の現状を 見直しましょう

一九八七年京都で開かれた第一

回福音宣教全国会議のテーマは「開かれた教会」でした。昨年十二月号に掲載しました、大阪教区「共同司牧を考える会」が作成した資料「小教区の現状把握のための物差し」の続きです。小教区の現状を見直すために活用して頂くよう、引き続きここに掲載します。

② 『転換』

(4) 掟や教義を中心にした捉え方からの転換

- ① 日曜日のミサへの自主的な参加者がどれだけいるか。
- ② 日常生活の問題が、典礼の中で持ち出されているか。
- ③ 典礼の中で、大人あるいは普通の人中心の典礼となっているか。
- ④ その時その時の問題に対して、指針をかえすことの出来る典礼となっているか。
- ⑤ 物事の判断を共に歩む中で、現実に照らしてなされているか。
- ⑥ 規則よりも、一人一人の状況の理解のために配慮する雰囲気があるか。

るか。

⑦ 伝統的、あるいは情性的な状況が物事の決定に役割を果たしていないか。

⑧ 自由な発想が、各協議の中でなされているか。

③ 「ともに歩む教会」へ

(信徒、司祭、修道者、司教がともに歩む教会)

① イベントや行事の発案は誰がしますか？ 準備、実行、反省。

a 神父が決めて、信徒が実行する。

b 神父と気に入りの特定の人だけで決める。

c 評議会などで進めていく。

d それぞれの委員会で決めて神父が報告を聞く。

② 細かいことにも神父の許可あるいは意見を聞いてからしか信徒は動かない。

例・パーティーのテーブルのセッティング

③ 一般信徒やシスターが意見を言う場がありますか。

④ 評議会などで決まったことが皆に報告されますか。

⑤ 神父が信徒やシスターから反論、注意、勧め等を受けたことがあり

ますか。

⑥ 小教区内に修道会がある場合、評議会にその代表者、委員会などに修道者が入っていますか。

⑦ 神父が信徒のタレント(特技)を把握していますか。

⑧ 評議会、各委員会が生きていますか。

名前だけなのか。
中の一人だけが取り仕切っているのか。

④ 「分かち合う共同体」へ

① 人々が自由に意見を述べられる雰囲気があるか。

② 自由に意見を述べるそれぞれの場(時間的、空間的、人脈的)が存在するか。

③ 小教区の決定に関して、公正がいつもあるか(評議会制度など)。

④ 小教区の協議事項が、いつもみんなに知らされているか(広報も含めて)。

⑤ 委員会など、教会運営の役割が一人一人に分かち合われているか。

⑥ 小教区の目標やビジョン、活動方針が協議され決定されているか。

⑦ 小教区の状況について、話し合う場があるか。

⑧ 予算決算などの決定する中で、

それぞれの役割に関心を払っているか。

⑨ 典礼が、小教区の人々の生活に染み込んでいるか。

⑩ 小教区に対しての責任を、一人一人が持っているか。それを理解しているか。

特に、司祭の役割への期待が、過大になっていないか。

⑪ 小教区内に聖書など分かち合うグループがあるか。

⑫ 女性や子供、老人の場が教会のそれぞれの場の中にあるか。

⑬ 小教区の中に、金銭的にも分かち合う場があるか(共助組合など)。

⑭ 小教区の中に、それぞれの能力を分かち合う組織と情報があるか。

⑮ 小教区の中に、典礼だけでない、日常生活の分かち合いの場があるか。

⑯ 信徒の人の役割が、確保され、受け入れられているか。

⑰ 「社会とともに歩む」教会へ

人々にキリストの喜びを伝える、弱い立場にある人々とともにある教会。

(この項については資料がありません。それぞれ質問を考えてみて下さい。)

■西院カトリック会館行事
問合せ・075182217123

福音センター

▽柳本神父の雑学講座「十干十二支」7日10時半

▽出エジプト記講演会「十戒」自由への道」講師中川博道師(カルメル会)8日14時~16時

費用・各回五百円

▽おてんとさんの会 毎週火曜日13時~16時半 お茶代百円

▽Stアスタの書道教室 毎週金曜日13時半~ 月謝二千元

▽カトリック聴覚障害者の会手話教室 火曜クラス10時半~12時 木曜クラス・聖書研究と手話の勉強19時半

■三重宗館の行事

▽暮しの中のカウンセリング 毎月曜日10時~12時

▽韓国語講座 毎木曜日10時~12時

▽聖書の話 24日19時 講師・幸田和生師

■三重地区の行事

▽三重県連絡協議会 12日

■奈良地区の行事

▽ボランティア養成中級講座

「身障者の介助実習」
場所・身障者通所施設「わかば園・いづみ園」

▽奈良県結婚互助会例会予定 奈良教会

■滋賀地区の行事

▽滋賀県信徒交流会 11日

▽滋賀県連合会 25日 大津教会

■河原町カトリック教会行事

▽カナの会結婚相談室 4日13時 受付 13時半~15時

▽レジオ・マリエ京都コミチウム 18日12時半

▽一万匹の蟻 21日19時

▽京都カトリック混声合唱団 24日19時

▽キリシタン研究会 25日15時

■京都南部地区の行事

▽手話教室 第1・3・4金曜日10時半~12時 西院教会

▽信睦二金会 9日 西陣教会

▽卒業式10日 洛星高等学校

▽南信協バザー実行委員会 18日 河原町教会

▽糠みその会 29日 九条教会

▽在世フランススコ会京都兄弟会例会 18日13時半

フランススコの家

一九九五年京都南ウオーカソン募金結果報告

昨年開催致しました第17回ウオーカソンの募金結果について報告申し上げます。

記

収入総額二、三三七、三五〇円

繰越金 三三一、三三九円

募金(前年分) 四八〇円

利息 五、一一六円

京都南部募金 一、九九〇、〇九五円

寄付 一〇、三二〇円

送金総額二、〇〇〇、〇〇〇円

〔内訳〕

●阪神大震災外国人被災者救援資金(大阪教区として、自治体

や国から援助を受けることが出来ない被災者のため) 九〇〇、〇〇〇円

●グアテマラ難民の幼児への援助(愛徳姉妹会が行っているメキシコ南部マヤテークン難民キャンプでの、幼児の栄養不足に対するプロジェクトに) 九〇〇、〇〇〇円

●パングラディシユ(アジア交流委員会からチッタゴン司教区通して地元の人々のために) 二〇〇、〇〇〇円

支出総額 二三五、四三〇円

内訳 印刷、備品、通信費等 一〇一、九二〇円

会の中でキリストを生きる(宇治黙想の家)
*7月6・7日 養成コース・社会の中でキリストを生きる(三重研宗館)
*9月28・29日 典礼コース・典礼を通して共同体のあり方を考える(野外礼拝センター)
*11月8・10日 祈りのコース2・自分に聴く、神に聴く、内面からキリストに回復していく(ノートルダム唐崎祈りの家)
*出前コース・教会と社会と私。依頼された時各教会で開きます。

福音センター養成コース予定

*4月20・21日 コミュニケーションコース・対話を通して豊かな人間関係をつくる(ウイチャタ聖ヨゼフ竜安寺修道院)

*5月24・26日 病人司牧コース・病人訪問の心得、共同体と病人(宝塚売布黙想の家)

*5月31日~6月2日 祈りのコース1・自分に聴く、神に聴く、さまざまな祈り(ノートルダム唐崎祈りの家)

*6月15・16日 養成コース・社

祈りの家)

京都教区青年ソフトボール大会

一九九五年十二月三日(日)
に京都教区青年スポーツ大会で
ソフトボールを伏見の聖母学院
グラウンドにて行いました。参
加して下さった方に感想を頂き
ました。

青年

普段は、京都教区がいつせいに集まれる場が少ないので、良い機会だったと思う。またリーダー研修で青年が集まるなどではなく、リクリエーションなので、だれもが気軽に参加できたと思う。

今回は、人数が少なかったのが少し残念だった。しかし、知らない人と知り合えたのは良かった。同じ価値観を持った人と知り合い交流を深められたことは人生の大きな財産だと思う。(小山教会・S)

交流

今回、初めての参加でしたが、とても良い一日を過ごせたと思います。河原町

教会の人達、高校生会や青年の人達とソフトボールを通して交流を持つことができて良かったと思っています。みんな熱を入れて試合に参加していたのが印象的でした。また来年も会えるといいですね。御苦労様でした。(大津教会・F)

爽快

私は、今回のソフトボール大会には中学生会リーダーチームの一員として参加させて頂きました。あいにく私たちのチームは全敗だったのですが、久しぶりに運動した爽快さは何とも言えないものがありました。今回は、あと河原町教会チームと高校生会チームの二チームだけだったので、これからはもっと多くの仲間とこうした催し物で楽しんでいきたいと思いました。

(西大和教会・O)

これを読んでおられるあなた、来年はぜひご参加ください。

((())) あんてな

外国語ミサ

●MASS IN ENGLISH (英語ミサ)

- *SHIN-AI KINDERGARTEN
~PAG-ASA COMMUNITY
Every Sunday 3 p.m.
- *Franciscan house
Every Wednesday 4 p.m.
- *NISHI-MAIZURU church
The first Sunday of the month 3 p.m.
- *KUSATSU church
The fourth Sunday of the month 2 p.m.
- *NARA church
The last Sunday of the month 2 p.m.
- *YAGI church
The third Sunday of the month 2 p.m.
- *TSU church
The second Sunday of the month 2 p.m.
- *MATSUZAKA church
The first Sunday of the month 3:30 p.m.
- *YOKKAICHI church
The second Sunday of the month 4 p.m.

●한국어 미사 (韓国語ミサ)

- *京都コリアン・カトリックセンター
第1日曜日 午前10時

●MISSA EN PORTUGUES

(ポルトガル語ミサ)

- *Igreja paróquial de KUSATSU
Segundo domingo do mes tarde 15 horas

●MISA EN ESPAÑOL (スペイン語ミサ)

- *Iglesia de FUSHIMI
Segundo Domingo del mes a las 2 de la tarde
- *Iglesia de KUSATSU
Primer y tercer Domingo del mes a las 2:30 de la tarde
- *Iglesia de YAGI
Primer Domingo del mes a las 2 de la tarde
- *Iglesia de NISHI-YAMATO
Segundo Domingo del mes a las 3 de la tarde
- *Iglesia de SUZUKA
Segundo Domingo del mes a las 2 de la tarde

- *スペイン語のサービスのある日本語ミサ
長浜教会 毎日曜日 午前10時半

上記のミサ時間の訂正、追加などがありましたら、京都教区国際協力委員会までお知らせ下さい。

(西院・桂教会 森田直樹)

教区スケジュール

- 2月
- 2日(金)古屋司教命日
4日(日)日本二十六聖人ミサ・田中司教司式(フランシスコの家)
5日(月)京都カテキスタ会新年ミサ・田中司教司式
6日(火)上賀茂神社宮司昇任祝・田中司教出席
7日(水)大聖年準備会・田中司教出席(東京)
8日(木)司教顧問会(河原町会館)11~12日教区青年の集い
15日(木)メリノール女子理事会・田中司教出席(四日市)
18日(日)青少年担当者会議
21日(水)灰の水曜日
22日(木)卒業式・田中司教出席(ノートルダム女学院高等学校)
25日(日)教区合同洗礼志願式(河原町教会) 14時
27日(火)社会司教委員会・田中司教出席(東京)

お知らせ

★ダイヤモンド祝おめでと〜ござ
います
聖トミニコ女子修道会 Sr竹中

たけ

★金祝おめでと〜ございます

メリノール宣教会 ウォルケン
師ショファアイユの幼きイエズス
修道会 Sr浦川スミ子
メリノール女子修道会 Srアグ
ネス・メリー・マッククレレン

★日本二十六聖人殉教四百年祭

来年は日本二十六聖人殉教四百年を迎えますが、今年が京都において捕らえられてから四百年になります。これに伴い11月23日にノートルダム女子大学ユニゾン会館にて四百年祭を開催します。教区全体で記念したいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。

★青年センターよりお知らせ

▽京都教区青年の集い
「とにかく会いたい!」
日時・11日18時受付 18時半夕食(持ち寄り) 12日15時半解散

▽場所・西院カトリック会館
持ち物・11日の夕食、シート持参

費用・五百円(食事は実費)
内容・ゲーム、交流会、ミニコンサート etc

*10日からの宿泊も可能
*途中参加、部分参加も可能
*21時半から翌日朝10時の間に来

られる方は、必ず電話下さい。
主催・京都カトリック青年センター
ター

問合せ・
075-822-6246
FAX・
075-812-6685

▽部活動委員会よりお知らせ
▽学習会

テーマ「インドダリットの取り組み」
インドのヒンドゥー教カーストから、クリスチャンになったダリットたちの闘いと取り組み。そして、日本基督教団・農村伝道神学校の、解放運動への展開。今回は、インドの視察研修を踏まえての、谷本さんの発題に期待をこめて、ご案内いたします。

お話し・谷本一広(日本基督教団京都教区・部落解放センター)
ター

日時・17日19時
場所・河原町会館6階

▽部活動常任・運営委員会
24日 河原町会館

★その他
▽大阪教区協働大司教任命される
イエズス会司祭レオ池永潤師が、
一九九五年12月21日付けで、大阪教区の協働大司教に任命され

ました。叙階式は3月20日に予定されています。

協働司教は、教区のすべての統治に関して教区司教を助け、通常の補佐司教と異なり、継承権を有しています。したがって池永大司教は、安田大司教が引退した場合、大阪の大司教となります。

▽大阪教区への震災義援金
引き続き協力をお願いします。
銀行名・関西銀行京都支店
口座番号・
普通預金232320
名 義・宗教法人カトリック京都司教区
代表役員 田中健一

▽「二万匹の蟻運動」基金報告
累計 10,547,721円
加入者 780名(12月19日現在)

★電話番号情報コーナー
▽いのちの電話(相談窓口)
075-864-4343
0742-351-0000
052-971-4343

▽京都市東九条在宅介護支援センター(24時間の体制)
ター
075-662-3971

▽北白川教会小聖堂内納骨堂
075-781-5884

▽聖ヨゼフ葬典社
075-312-7829